

平成22年3月期決算の概要①【損益の状況】

1. 足利ホールディングス連結

◇連結粗利益は、足利銀行の業務粗利益が計画を大幅に上回ったことを要因として、957億円(計画比+85億円)となりました。
 ◇貸倒償却引当費用と株式等関係損益が前期比大きく改善したこと等から、経常利益は246億円(計画比+77億円)、当期純利益は254億円(計画比+89億円)となりました。

(単位：億円)

	21/3期実績	22/3期実績	21/3期比	22/3期計画	計画比
連結粗利益	651	957	306	872	85
営業経費(▲)	409	581	171	-	-
貸倒償却引当費用(▲)	193	125	▲67	124	1
株式等関係損益	▲299	▲12	287	-	-
経常利益	▲272	246	519	169	77
当期純利益	▲65	254	320	165	89

※21/3期実績については、足利銀行連結の20年度第1四半期の損益が反映されておられません。

2. 足利銀行単体

◇資金利益・役務取引等利益は計画を若干下回ったものの、金利動向を踏まえた債券売却により国債等債券損益88億円を計上したことから、業務粗利益は936億円(計画比+76億円)となりました。
 ◇経費が496億円(計画比▲14億円)となったことから、本業ベースの収益であるコア業務純益は、351億円(計画比+1億円)となりました。
 ◇実質信用コストは79億円(計画比▲22億円)となり前期から大きく改善したほか、保有株式の売却を進めたことによる株式等損益50億円を計上したことから、経常利益は399億円(計画比+151億円)、当期純利益は401億円(計画比+153億円)となりました。

(単位：億円)

	21/3期実績	22/3期実績	21/3期比	22/3期計画	計画比
業務粗利益	862	936	73	860	76
資金利益	727	737	9	744	▲7
役務取引等利益	111	104	▲6	107	▲3
その他業務利益	23	94	70	8	86
国債等債券損益	13	88	75	-	88
経費(▲)	486	496	9	510	▲14
うち人件費(▲)	221	239	17	239	0
うち物件費(▲)	222	228	5	242	▲14
実質業務純益	375	440	64	350	90
コア業務純益	362	351	▲11	350	1
一般貸倒引当金繰入額(▲)	(+)▲12	(+)▲18	(+)▲6	1	(+)▲19
業務純益	387	458	70	348	110
臨時損益	▲279	▲58	220	▲100	42
うち不良債権処理額(▲)	208	107	▲101	100	7
うち株式等損益	▲31	50	81	-	50
経常利益	108	399	291	248	151
特別損益	2,568	6	▲2,561	-	6
当期純利益	2,804	401	▲2,403	248	153
資金援助控除後当期純利益	238	401	162	248	153
実質信用コスト(注)(▲)	191	79	▲112	101	▲22

(注)実質信用コスト=一般貸倒引当金繰入額+不良債権処理額+売却債権精算損-償却債権取立益

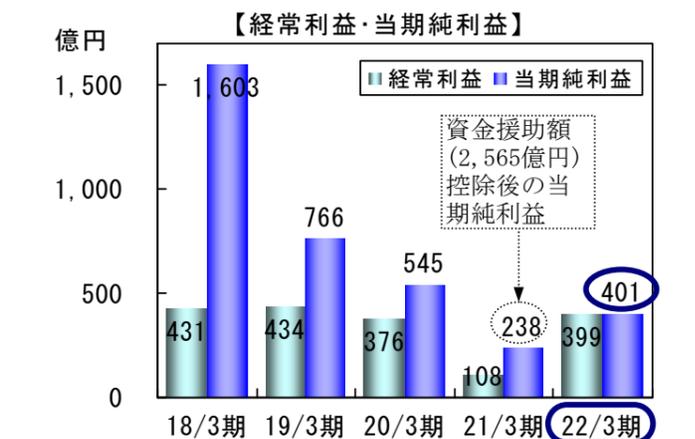
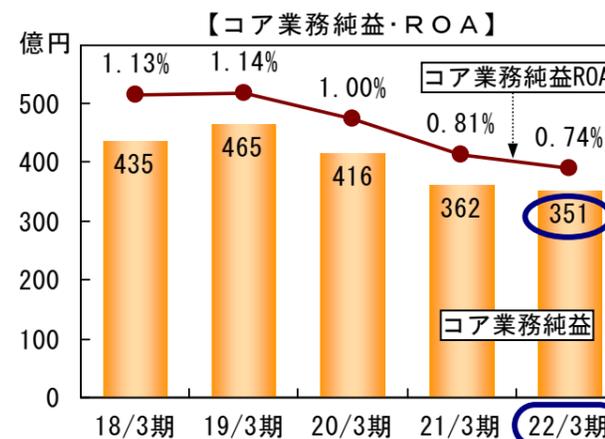
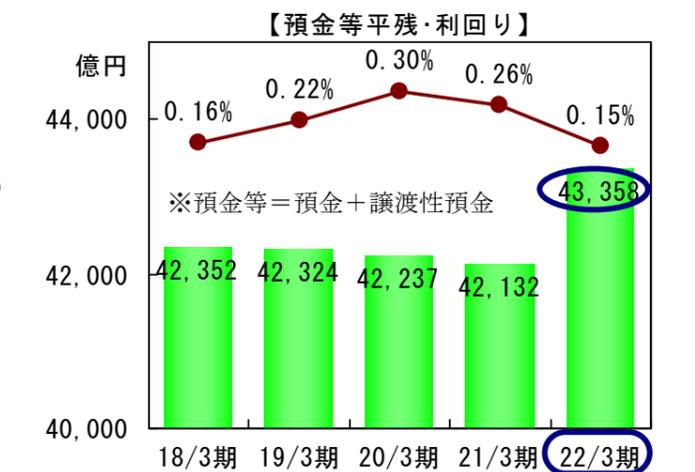
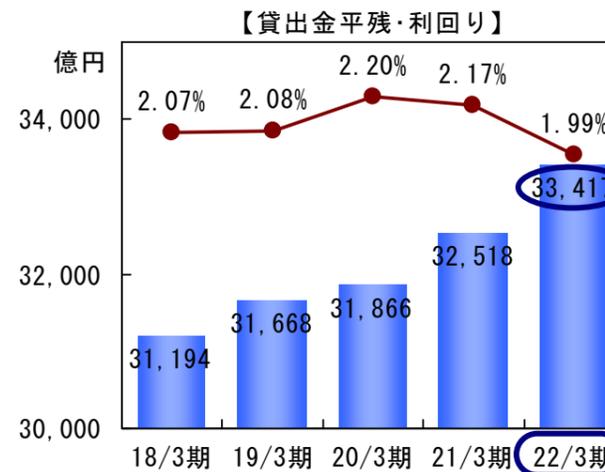
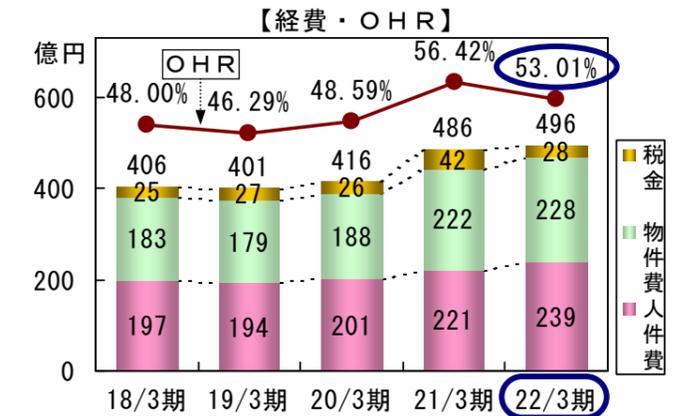
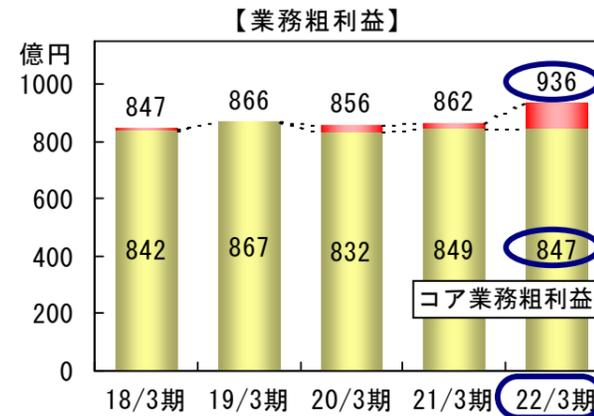
3. HD連結と銀行単体の差額の内訳

(単位：億円)

	22/3期	主な内容
当期純利益の差額	▲146	⇒HD連結254億円-銀行単体401億円
HD劣後ローン支払利息	▲34	⇒HD劣後ローン残高800億円
HDのれん償却	▲62	⇒22/3期のれん1,131億円
その他HD連結調整等	▲44	⇒有価証券関係損益の調整(※)等
銀行子会社分の損益	▲5	⇒銀行連結と銀行単体の当期純利益の差額

※足利銀行の保有する有価証券の取得原価が、HD連結と銀行単体で異なるため生じるものです。

4. 主な計数の推移(銀行単体)



平成22年3月期決算の概要②【主要勘定（銀行単体）】

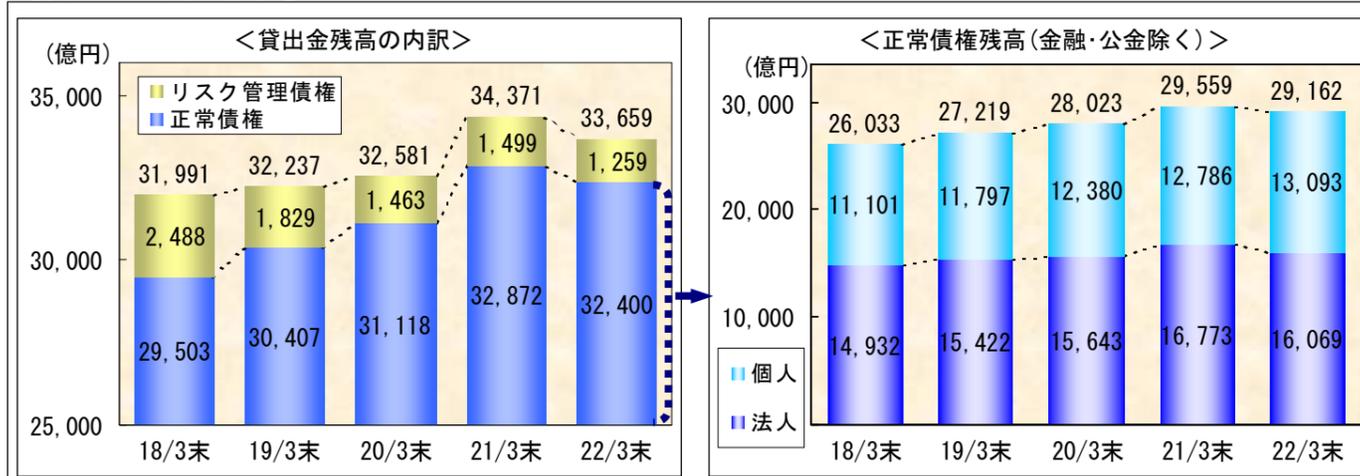
1. 貸出金

・平残は増加(前年比+898億円)したものの(前頁が参照)、末残は33,659億円(同比▲711億円、年増率▲2.0%)となりました。住宅ローンが11,780億円(同比+417億円)となり、個人貸出は増加(同比+298億円)しましたが、年度後半にかけて、設備資金をはじめとした企業の資金需要低迷から、法人貸出は減少(同比▲935億円)となりました。なお、継続的な小口金融の推進やランクアップ等から、法人融資先数(要管理先以上)は、20,205先(前年比+464先)となりました。

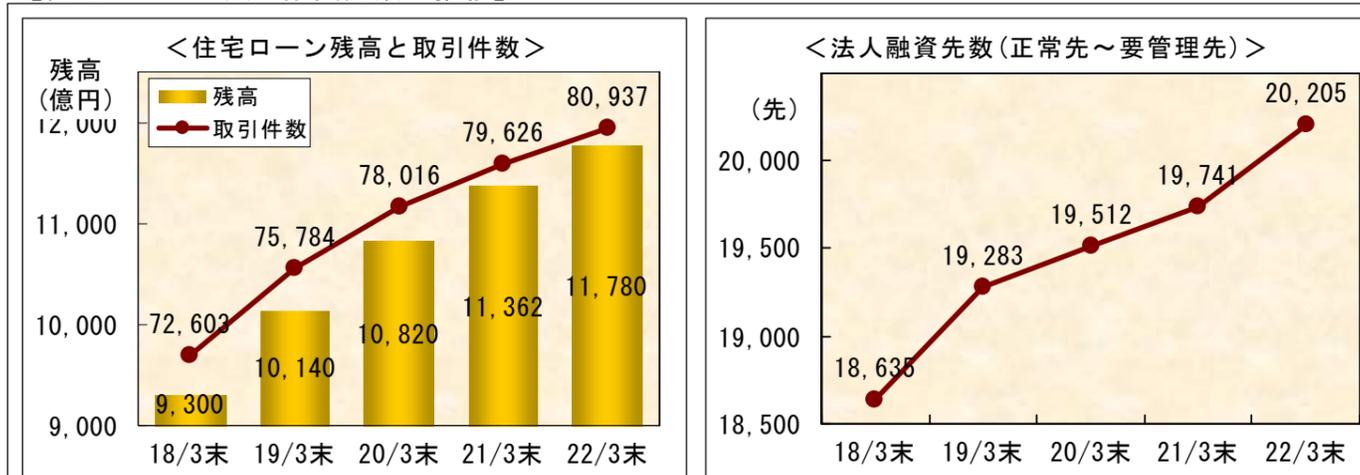
(単位：億円)

	20/3末	21/3末	22/3末	21/3末比	(年増率)
貸出金(末残)	32,581	34,371	33,659	▲711	▲2.0%
個人貸出	12,670	13,071	13,370	298	2.2%
うち正常債権	12,380	12,786	13,093	306	2.3%
法人貸出	16,816	17,987	17,051	▲935	▲5.2%
うち正常債権	15,643	16,773	16,069	▲703	▲4.1%
公金+金融	3,094	3,312	3,237	▲74	▲2.2%
(個人ローン)					
個人ローン	11,333	11,830	12,207	377	3.1%
うち住宅ローン	10,820	11,362	11,780	417	3.6%

【貸出金残高の推移】



【住宅ローン・法人融資先数の推移】



2. 預金・個人預り資産

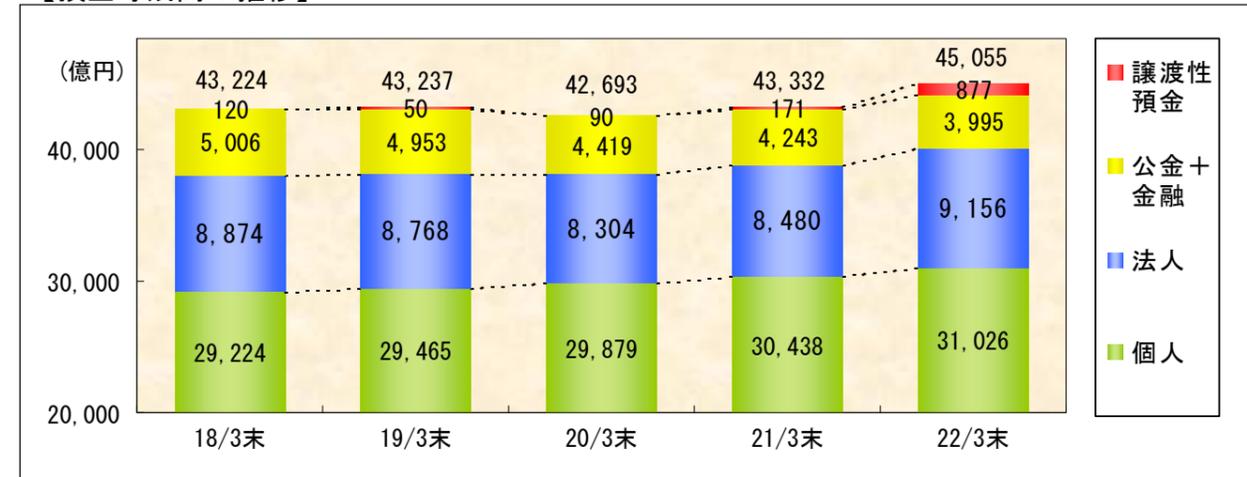
・個人預金と法人預金が堅調に増加したほか、譲渡性預金も増加し、預金等残高(預金+譲渡性預金)は、45,055億円(前年比+1,722億円、年増率3.9%)のとなりました。
 ・個人預り資産は、投資信託・債券・保険ともに増加したことから、6,144億円(前年比+951億円)となり、個人預金とあわせた個人金融資産残高は37,170億円(年増率4.3%)となりました。

(単位：億円)

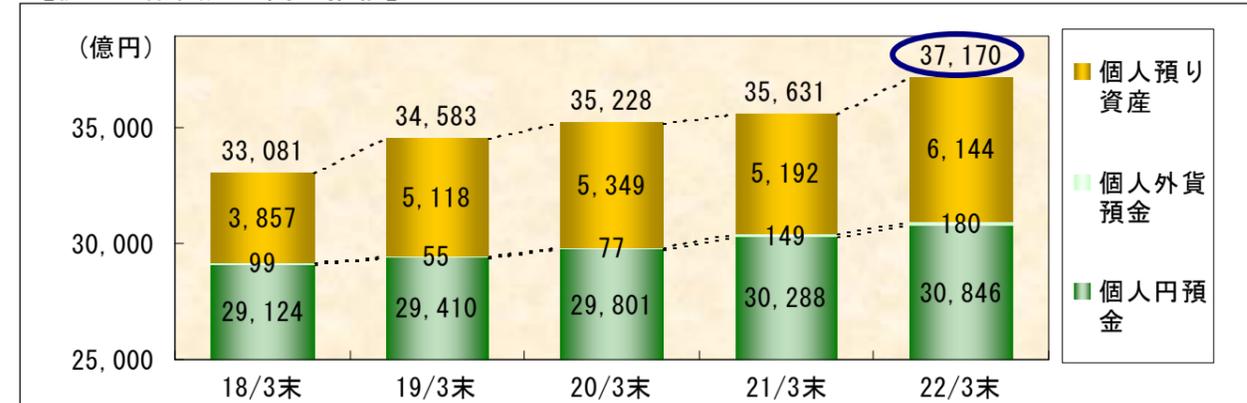
	20/3末	21/3末	22/3末	21/3末比	(年増率)
預金等残高(末残)	42,693	43,332	45,055	1,722	3.9%
預金(末残)	42,603	43,161	44,177	1,016	2.3%
個人預金	29,879	30,438	31,026	588	1.9%
法人預金	8,304	8,480	9,156	675	7.9%
公金+金融	4,419	4,243	3,995	▲248	▲5.8%
譲渡性預金(末残)	90	171	877	706	412.8%
(個人預り資産)					
個人預り資産	5,349	5,192	6,144	951	18.3%
投資信託	2,887	2,060	2,459	398	19.3%
債券(約定ベース)	1,750	2,119	2,238	118	5.6%
保険※	710	1,012	1,445	433	42.8%

※保険=個人年金保険+一時払終身保険

【預金等残高の推移】



【個人金融資産残高の推移】



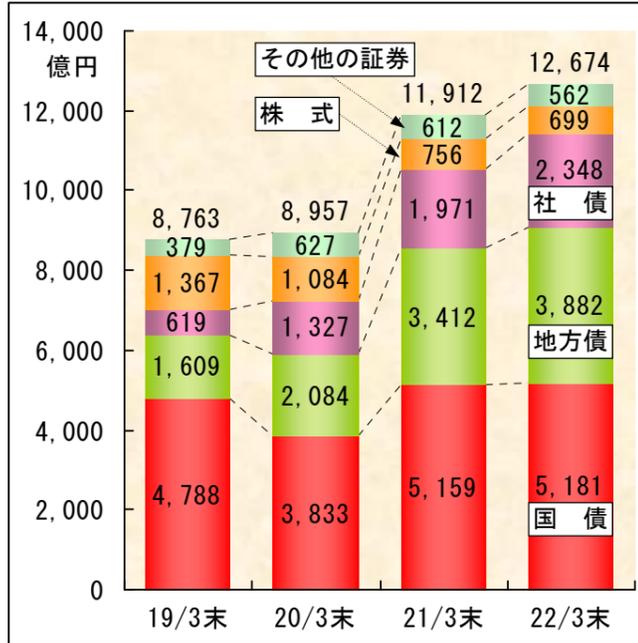
平成22年3月期決算の概要③【有価証券・不良債権・自己資本比率】

1. 有価証券の状況

(1) 有価証券残高・有価証券関係損益（銀行単体）

- ・有価証券残高は、国内債券を中心として、12,674億円（前年比+761億円）に増加いたしました。
- ・債券は、金利動向を踏まえた売却と残高の積上げを行い、国債（同比+21億円）・地方債（同比+470億円）・社債（同比+376億円）とも増加しました。なお、国債等債券損益は88億円を計上いたしました。
- ・株式は、株価変動リスク抑制の観点から一部を売却し、699億円（同比▲56億円）となりました。なお、株式等損益は50億円を計上いたしました。

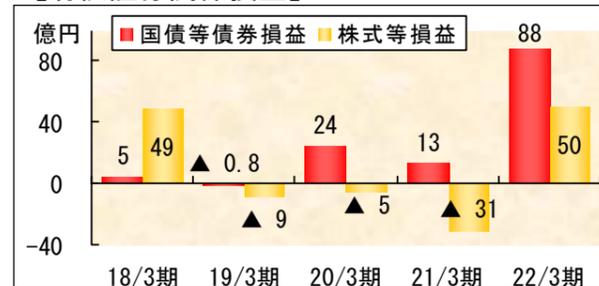
【有価証券残高の推移】



【有価証券の内訳】（単位：億円）

	22/3末	21/3末比	21/3末
有価証券残高	12,674	761	11,912
国債	5,181	21	5,159
地方債	3,882	470	3,412
社債	2,348	376	1,971
株式	699	▲56	756
その他	562	▲50	612

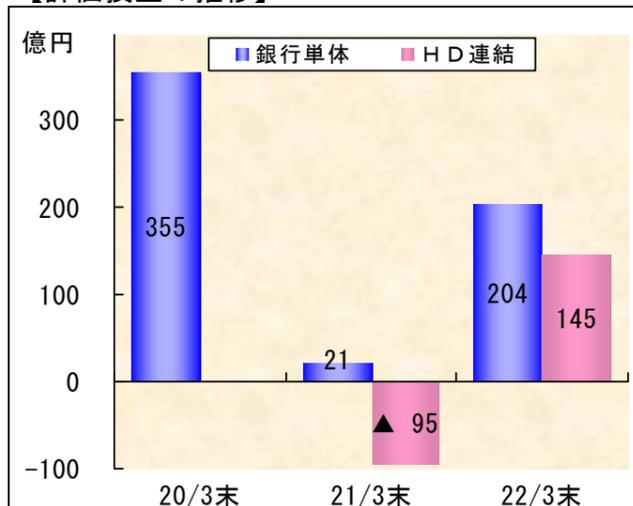
【有価証券関係損益】



(2) 「その他有価証券」の評価損益

- ・評価損益は、株価の回復等から、銀行単体が204億円のプラス（前年比+182億円）、HD連結が145億円のプラス（同比+240億円）にそれぞれ改善いたしました。
- ・なお、HD連結と銀行単体で評価損益に差が生じておりますが、足利銀行の保有する有価証券について、HD連結と銀行単体における取得原価が異なるため生じるものであります。

【評価損益の推移】



【銀行単体ベース】（単位：億円）

	22/3末	21/3末比	21/3末
評価損益	204	182	21
債券	132	37	94
株式	100	94	5
その他	▲27	51	▲78

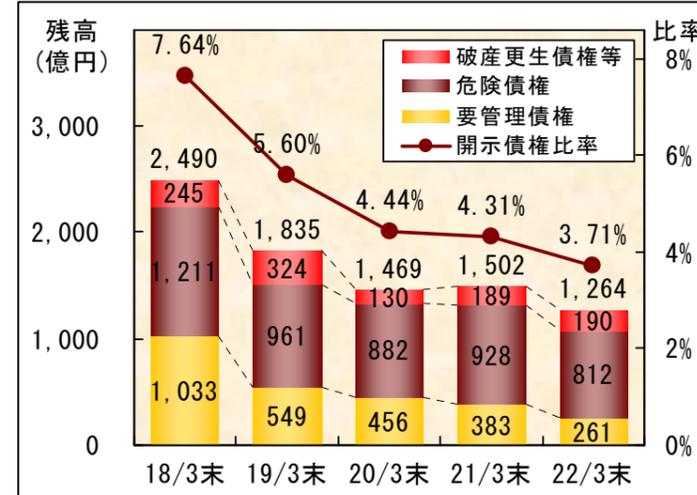
【HD連結ベース】（単位：億円）

	22/3末	21/3末比	21/3末
評価損益	145	240	▲95
債券	139	31	107
株式	14	158	▲143
その他	▲8	50	▲59

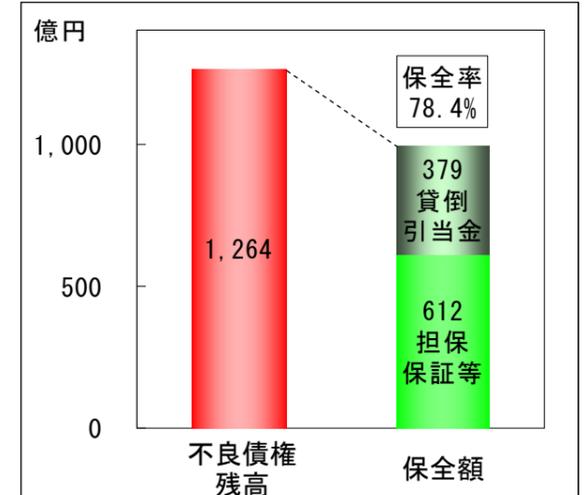
2. 不良債権の状況（銀行単体）

- ・経営改善支援の継続的な取り組みや貸出条件緩和債権の基準見直しへの対応等によるランクアップの増加等から、不良債権（金融再生法開示債権）は、前年比▲237億円の1,264億円（比率3.71%）となりました。
- ・不良債権（金融再生法開示債権）に対する保全状況は、担保・保証等による保全額が612億円、貸倒引当金が379億円となり、保全率は78.4%（前年比+1.7%）となりました。

【金融再生法開示債権の推移】



【金融再生法開示債権の保全状況】



3. 自己資本比率

- 自己資本比率は、当期純利益の計上を主因として、HD連結7.63%（前年比+1.88%）、銀行単体7.47%（同比+1.42%）と、それぞれ上昇いたしました。

【22/3末の自己資本比率】

項目	HD連結	銀行単体
基本的項目（Tier1）（A）	① 1,071	1,675
補完的項目（Tier2）（B）	② 787	152
控除項目（C）	7	0
自己資本額（A）+（B）-（C）	1,850	1,828
リスク・アセット	24,255	24,473
自己資本比率	7.63%	7.47%

- ① HD連結のTier1からは、のれん相当額（1,131億円）が控除されております。
- ② 劣後ローン800億円のうち、164億円がTier2に不算入となっております。
- ※HD連結・銀行単体とも、その他有価証券評価差損がないことから、「銀行等の自己資本比率規制の一部を弾力化する特例」にかかる影響はありません。

【自己資本比率の推移】

